令和3年度　西東京市立田無小学校　学校関係者評価表

学校教育目標	**◎よく考え工夫する子ども　◎仲よく、助け合う子ども**　○よく働き、責任をもつ子ども　○きまりを守り、礼儀正しい子ども　○健康で、ねばり強い子ども
目指す学校像	**○一人一人の児童を全教職員で担任し(チーム田無)、児童を成長させる学校**　『西東京市教育計画』『西東京市子ども条例』を踏まえ、田無の子供たち「生活スタンダード」を徹底する
目指す子供像	○「**た**くましい体と心　**な**ごやかな心　**し**っかりとした学び　笑顔いっぱい田無の子」
目指す教師像	○「使命感・実践力・情熱」をもち、笑顔あふれる教師 「笑顔」「育てる児童の力・守るべき人権を明確化して職務に臨む強い使命感」「可能・必要を優先し児童の姿で評価規準を設定し、全教職員が同一歩調で確実に実践する力と情熱」 ①自己研鑽　②常に次の一手を考える前向きさ　③全教職員で児童を育てる一体感と学校としての意志の高揚

	具体的方策	学校自己評価		学校の取組み及び改善策	学校関係者評価	学校関係者評価記入欄
		努力目標	成果目標			
確かな学力	年5回以上の授業公開をし、校外の研究授業参観や研修会参加を3回以上行う。終業前15分間を活用したOJTを充実させる。	4	3	9月、1月から2月のオンライン授業を経験し、タブレットを用いた授業において、研究を行い、実践を積むことができた。コロナウイルス感染拡大防止下において、日常の授業の中では実施可能な範囲で授業公開、研修を実施し、研鑽に励んだ。3年目となる校内研究では、研究授業の提案を分科会ごとに実施したり、全員が道徳授業を自主公開したりするなど、実施可能な形態を模索して取り組むことができた。OJT研修では、計画的に実施することで、主任教諭を中心とした授業改善を行えた。今後も研修機会の確保と計画立案を継続していく。	4	積極的にオンライン授業に取り組み、分かりやすい授業づくりに努めたことをまず評価したい。感染拡大防止下において実践した中で得られた課題を、次なる子供たちの学びの環境に生かしてほしい。学びを継続することがとても大きな事であったと感じる。
	基礎・基本の定着と主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善に取り組む。	4	4	アンケートでは９５%の評価を２回連続で得られた。目標が達成できことを高く評価したい。コロナ禍にあり、オンライン授業期間を経てここまで来たが、様々な挑戦のもとで達成できたことは大きな成果である。授業は学校生活の基本だ。今後もペア学習、小集団での学び合い等が実施できない状況下でも、できる形態を模索しながら授業を実施していく。継続して、よりよい授業づくりのために研修を重ねていく。	4	様々な困難の中、先生方の創意工夫や取り組みに感服する。コロナ禍の２年間において、さらなる授業改善を求められた年はなかったのではと思う。子供たちの学びのために、さらなる進化をお願いしたい。学年ごとの評価、家庭の協力についても見取りを継続したい。
健康な体と心の育成	毎月、特別な教科　道徳、保健、食育、安全の指導や授業を行うとともに、家庭との連携を図りながら継続的な日常の指導を行う。	4	3	第１回アンケートは９０%、第２回では７８%の評価を得た。保護者からは概ね肯定的なご意見をいただけた。西東京市の「健康」都市宣言を受け、毎月の保健・食育・安全指導や授業を実施した。健康教育推進は家庭との連携が大切である。連携を図ることができるように、各種便りの紙面内容の充実を図った。給食便り、保健便りなどでは、関連する授業を丁寧に取り上げ、分かりやすい表現になるよう努めた。多岐に渡る内容を継続指導し、本校の特色ある教育の一つとして、今後も健康教育に力を入れ、健康の増進と体力の向上に努めていく。	4	子供たちの体力や健康面での低下が少しでもよりよくなるよう、子供たちの環境づくりに寄与していきたい。オンライン授業のために体を動かすことができず、体力の低下や動けないことへの身体へのストレスの影響が心配される。体を動かすことなど、学校だけではなく運協（校庭開放）と連携をして、子供たちへの運動啓発ができたらと思う。
	「特別の教科　道徳」の研究を進め、道徳教育・人権教育の充実を図り、保健、食育、日常活動等の授業を活用し、健康教育を行う。児童理解を深めるため、年間2回以上の児童個人面談等を行う。	4	4	第１回アンケートでは９４%、第２回では９５%の評価を得た。５%の児童、学級内における人数で考えると各学級１人に満たない数の児童が「楽しくない」と回答している。オンライン授業期間では、児童との面談を実施したり、オンライン授業期間に登校日・相談日を設けて心身の様子に注意を払うことができるようにした。年間2回以上の面談を確実に実施している。ふれあい月間、年間2回の学校生活アンケートでは、クラスの実態を把握することに努めた。児童に寄り添うことで、今後も１００%の児童が「楽しい」と回答できることを目指す。	4	オンライン授業の実施により、学校という場の意味が改めて問われたと感じる。学校が居心地のよい場所であるように願う。オンラインで不登校児童が授業参加できる面や、オンラインでは集中できなかったり、友達と会えなくて寂しいと思う子供たちもいたと聞くので、両方にとってよい方法が見つかるとよい。個人面談などは、一人一人の子供たちの変化をキャッチするのに、大変かと思いますが有効かと思います。引き続きの実践をお願いしたい。
開かれた学校	地域環境・人材(保護者)を活用・連携した学習を各学年年間3回以上実施する。	4	4	コロナウイルス感染拡大防止下においても、適切な実施ができたと考える。市の施策に挙げられている人権教育、SOSの出し方、がん教育、認知症教育、薬物乱用防止教室など、地域人材の活用を図り、児童の理解を高めていく。児童は知る喜びを強くもって、学習に臨むことができた。また、地域には東大農場、多摩六都科学館、田無神社、小金井公園など、多くの特徴的な施設がある。次年度も教育課程全体とのバランスを考慮しながら、計画的に地域の人材や施設を活用できるよう、ご協力を得ていく。	4	今後とも大いに地域の力を活用してほしい。コロナ禍にあり、様々な制限がある中でも、外部の方を招いて授業を実践いただけたことは子供たちにとてもよい経験になったと思う。子供たちの学びの環境を整えて実践していただけると感じる。HPや学校便りなど、とても開かれた学校のイメージが伝わってくる。
	学期に4～5回程度の保護者等の学校来校日の設定及び文書案内と学校配信一斉メール、HP更新を合わせて100回以上行う。	4	3	第１回アンケートは９３%、第２回では８８%の評価を得た。諸通信は印刷物での周知を基本とする。情報の一元化を求める声が一部あるものの、情報共有の手段として、印刷物、学校HP上のデータファイル、一斉メール配信での併用したお知らせを充実させた。また、タブレットのGoogleクラスルームへの情報共有も試みた。今後もより、学校情報を的確に共有できるようにする。HPの「ひとこと日記」では、学校の様子を丁寧に配信した。学校へ来校する機会が減った保護者や地域の方との情報共有の場として創意工夫できた情報発信であった。「フォト日記～たなしの子」でも各学年が情報を発信し、学年便りをデジタル化する等、情報発信できた。	4	学校公開がなくなっても、毎日更新されるHPでの「ひとこと日記」を楽しく拝見している。学校の様子が分かると保護者からも声を聞く。子供の様子や先生方がどのように準備をしているかなど、よく分かる。毎日子供たちの様子が伝わる配信をしてくれていることに感謝する。今後も大変かと思うが継続してほしい。
特別支援教育の推進	支援を要する児童や保護者の情報を、生活指導朝(夕)会等を活用して、全職員で共通理解を図り、SC、SSW等関係機関と連携し、全校的な支援を行う。月1回以上の校内支援委員会の開催を行う。	4	3	第１回アンケートは８６%、第２回では８７%の評価を得た。報告・連絡・相談を確実に行い、些細なことでも共有できるように今後も組織対応を進める。原則毎週行う生活指導夕会や年２回の生活指導全体会で、生活指導上の課題や児童理解を共有した。また、ふれあい月間の取組は、いじめや児童間の問題を未然に防止したり発見したりするきっかけとなった。生活台帳を活用することで、児童への対応を継続的に記録し、課題解決につながる取組をする。意図的・計画的に個人面談を組んだり、スクールカウンセラーとの連携を計画的に行ったりし、児童理解を深める。	4	特別支援学級があることで得られる気付き、優しさが全校児童の糧となりますように生活の様々な場面での交流を大切にしてほしい。子供たち全体の特別支援教育への理解はあり、また先生方がさらに細かい取り組みを共有することで、先生方から子供たちに伝わっていくと思う。学校全体で問題を共有し、対応を考えてくださっていることは、保護者にとってもありがたいことだと感じる。
	特別支援学級と通常の学級の交流を年間3回以上行う。また、特別支援教育の手法を活用した学習活動の充実を図る。	4	3	人権に配慮しつつユニバーサルデザインを取り入れた掲示物の位置を意識した。特別支援からの視点で教室、学校環境を整えた。コロナウイルス感染拡大防止下にあることから、年間３回以上の実施とし、限られた交流の機会を大切に実施することができた。立案した交流計画を実施し、行事の交流に限らず、交流学習や教科指導での双方向の交流を工夫した。今後は、兼ねてより計画していた交流給食の実施をしたい。特別支援学級の理解や児童理解を深めたり、理解教育を実施したりし、児童の理解を深める働きかけを行っていく。	4	交流機会の設定は、かなり難しかったと思う。限られた時間の中で行事や交流などできることを進めていただき、ありがたい。今後の活動に期待している。
業務改善・働き方改革	週当たりの在校時間が60時間を超えない。	4	4	出退勤管理のもと、各自が勤務時間を超過しないように過ごせた。各教科の指導においては、共有財産として使用できる教材づくりに取り組んだり、OJTを積極的に実施したりする中で、働き方改革につなぐことができた。Googleを活用した学年、学校としての教材づくりを進めていきたい。今後も職員同士、互いの様子を気にかけて過ごし、組織としての対応を続ける。また、コロナウイルス感染拡大防止下において、消毒作業など、新しい学校生活様式に応じて、勤務することができた。	4	取り組み成果が十分に数字に表れている。まだまだ先生方の負担は大きいのではないかと思う。不登校児童の対応やその他、保護者との連絡にかなり時間が取られていると感じる。先生方の働き方改革はとても大変だと思うが、今後も頑張ってほしい。先生方の体調管理も一番に考えてほしい。
	会議の精査や学校行事の精選、ライフワークバランスなどについて、自己申告書に具体的な目標を示し、取り組む。	4	4	コロナウイルス感染拡大防止下において、改めて行事の精選、業務改善の洗い出し、引継ぎ等について、適宜計画の見直しを実施し、意識改革を図ることができた。新年度計画をもとに、改善の図れる箇所を常に確認したり共有したりし、問題解決、意識改革をできるように働くことができた。次年度も継続していく。	4	オンライン授業で先生方のご負担は大変かと思うが、働き方改革の実践をどうぞ継続されますように応援している。業務の理想はライフワークバランスを取ること、大変な課題ではあるがよい指導のためには先生方の環境も整えないといけない。